

令和4年度旭川未来会議2030 子育て分野 第2回分野別会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年5月30日（月） 午後5時30分から午後6時45分まで
- 2 開催場所 旭川市市民活動交流センター C o C o D e 2階 会議研修室1
(旭川市宮前1条3丁目3番30号)
- 3 出席者（参加者） 會田さやか
小林香澄
早川由理
松澤美沙
丸山恵理
山田覚
吉田育子
※敬称略，五十音順
- 4 出席者（市側） (運営事務局)
子育て支援部 浅田部長，竹内次長
子育て支援課 高橋課長補佐，清原子育て企画係主査
おやこ応援課 川村課長，柴田主幹，堤課長補佐
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 3名（傍聴1名，報道機関2名）
- 7 意見交換
※進行役：吉田育子

(1) 議題「(仮称) あさひかわおやこひろば」について

ア 愛称について

(参加者)

- ・具体的な名称ではないが，そこに行くと肥料や水となるものがあって，親子で成長できる，栄養がもらえるというイメージで，親子の「芽」というのを考えた。

(参加者)

- ・あさひかわおやこひろばもわかりやすい。

(参加者)

- ・旭川のシンボルや歴史にちなんだ言葉が入るといい。
子ども総合相談センターにあるときひろばがわかりやすかった。

(参加者)

- ・あさひかわおやこひろばの「あさひかわ」に替わる言葉があるといい。

(参加者)

- ・子ども総合相談センターは「子総相」と省略されるが、省略しなくてもいいような、長くても5文字くらいの名前だといいい。C o C o D e (ココデ) など。

(参加者)

- ・子育てのイメージではないが、旭川にちなんだ植物でいえばナナカマドもわかりやすいと思う。

(参加者)

- ・ナナカマドも、旭川の豊かな自然ややさしい感じと捉えれば、子育てにつながる部分もあると思う。
- ・短い言葉という意見には賛成。

(参加者)

- ・これまでに出た「ナナカマド」、「芽」や「すくすく育つ」という意味のアイヌ語で響きのいい言葉があると、それもいいと思う。

(参加者)

- ・施設の大きな窓からナナカマドが見えるといいい。
- ・旭川にちなんだものとしては、市民の木のナナカマドのほか、市民の花のツツジ、市民の鳥のクレンジャク、市民の虫のカンタンがある。

(参加者)

- ・親子やいろいろなものをつなぐというイメージで架け橋というのはいかがか。

(参加者)

- ・架け橋はいい。

イ 遊びの空間の機能、設備、玩具、図書について

(参加者)

- ・絵本を置くのはすごくいい。
- ・市立図書館と連携して、リサイクル市の本を置いたりできるといい。
- ・分室にするのは難しいと思うが、図書の貸出や返却ができたり、ボランティアによる読み聞かせなどができるといいい。
- ・美術館と連携した展示など、そうしたところともつなげられるといいい。

(参加者)

- ・施設の利用価値も上がるので、図書館分室はすごくいい。
- ・本が置いてあるだけで、家で絵本を読む延長のようになると、お母さんが休むことができるというイメージから離れてしまうので、読み聞かせしてくれる人、紙芝居を聞かせてくれる人がいるといいい。
- ・子どもの年齢、発達やタイプにあった絵本を知ることができると、家庭での親子の関わりづくりにも役立つ。

(参加者)

- ・中心市街地にあることで、そこで借りられないとしても、いろいろな本が置いてあって子どもの好きな本がわかると買って帰れる。
- ・子育てや子どもの発達など、お母さんに読んでほしい本も置いてあるといいい。

(参加者)

- ・玩具について、キャラクター玩具ではなく、小さい子が木の温もりを感じながら安全に遊べる玩具で、旭川産の木製玩具など、ここでしか遊べない、家庭ではなかなか買えない玩具があるといい。ただし、子どもはそういう玩具に興味を持ちにくいと思うので、玩具の遊び方や適性などをアドバイスしてくれる人が必要。
- ・量を確保しなければならず難しいかもしれないが、将来的にでもいいので玩具を借りられるといい。

(参加者)

- ・木のおもちゃはいい。

(参加者)

- ・幼稚園などで使われている知育玩具や、例えば作業療法士が選ぶおもちゃが置かれていると、子どもにもプラスになるし、親の学びや子どもの成長への気付きにもなる。
- ・ここに来るとなにか得られるものがあるって、親子のプラスになるということになれば、お母さんの心の栄養にもなるし、子どもの育ちにもつながる。

(参加者)

- ・そういう場所ならリピートしたいと思う。

(参加者)

- ・親の心配や不安が解消されたり、子どもの特性や子どもにとって必要なものを知ることができるとお母さんの負担が減ることにもつながる。

(参加者)

- ・ワイヤー上で玉を移動させるおもちゃなど、子どもの気持ちが盛り上がりながらも音が出ないようなおもちゃもいい。

(参加者)

- ・わらべうたなど、民間で活動している人が週替わりでいたりすると利用したい。

(参加者)

- ・手遊びなどもいい。

(参加者)

- ・0歳の頃は動きながら学ぶことが多い時期だと思うので、ゆるやかな坂や割れない鏡など、寝転がるだけでなく、子どもの刺激になるものがあるといい。
- ・はいはいやつかまり立ちの時期は、家では危険でさせられないことが多いと思うので、例えばティッシュを好きなだけ出したり、ものを叩くといった子どもが必要としている動きを思い切りさせられるような場所だと、親の気付きにもなるし、子どもにとってもいい。
- ・もう少し大きくなると、指先を使った遊びができるおもちゃもいいと思う。
- ・わらべうたイベントはいい。イベントが減っている中で出かけたお母さんも多いと思う。

(参加者)

- ・ベビーマッサージなどもいい。
- ・民間の方が関われるイベントや機能があるといい。
- ・ゆるやかなスロープがあり、登り切った先がロフトのようになっていて、そこでは木のおもちゃで遊べたり、その下は絵本スペースになっているような、スロープ自体も遊びになるようなものがあるとおもしろい。

(参加者)

- ・子どもは、もりもりパークや美瑛のビ・エールにあるようなゆるやかなスロープとかちよつとした段差が好き。

(参加者)

- ・実際の建物を見るとそこまで広いわけでもないと感じたので、ロフトにするとスペースも確保できる。

ウ 将来的に付加する機能やイベントについて

(参加者)

- ・市内には、子育てや親子に寄り添う活動をしている方がたくさんいる。そうした方々から、ここに行けば誰かいる、なにか得ることができるという場があればいいという話を聞く。おやこひろばがそうした場になれば敷居が下がるし、市民活動の場となるほか、活動の認知にもつながる。知識や情報も集まるし、施設を利用する動機にもなる。
- ・お母さんは子育てでいっぱいだと思いますので、がんばって情報を探すのではなく、なにげなく行ける場所で得られるものがあって、気持ちが楽になるような場であるといい。そうした場にするためには、民間で活動している方をうまくつなげていくことが効果的だと思う。

(参加者)

- ・いろいろなところに相談や支援に関するチラシは置いてあるが、それを見たとしても、電話するなどの行動を自ら起こさなければならない。直接会えればその場で済むし、話もしやすくなるので、日替わりや月に数回など、いろいろな方がいてくれると心強い。

(参加者)

- ・自分の妻は市外出身だが、身近に、子育てや家族のことを相談したり、分かち合える人がいないという話をしたことがある。そういうときに、こういう場があって、子育ての先輩や昔で言うところのお節介をやってくれる方のような人が常時いて、いろいろな話を聞いてくれれば、情報交換もできるし、行動も広がる。

(参加者)

- ・民間で活動している方の活動を知ってもらえる場にもなる。
- ・行政だけが子育て支援を担うのではなく、民間と連携することで活性化する。

(参加者)

- ・まさに架け橋で、子育てに対する敷居も下がる。

(参加者)

- ・中心市街地にあって、自動車で行くことになるので、行く意味がある場所にならないと健診以外では利用されなくなると思う。
- ・ここに行けば楽しい、気持ちが楽になる、心の拠り所になるというような、ほかとは違う特化したなにかがあるといい。

(参加者)

- ・子どもの行動について、お母さんにとってはイタズラでも、子どもにとっては大事なことだということを知るだけでもお母さんの気持ちは楽になる。
- ・そのまま大丈夫だということを伝えてくれる場所があるなら、子どもが思い切りさせてもらえる場所があるなら、親子にとっていい。

- ・子どもの発達に関しても、知っていると知らないでは心の余裕の持ち方が違ってくる。
- ・例えばスーパーで子どもが騒ぐことがあるが、お母さんにとっては苦しいことでも、子どもにとっては大事な過程だと知っていたら、気持ちの持ちようが替わってくる。
- ・そこに行ったときには、子どもが十分に騒げて、周りもやさしく見守ってくれると思うと気持ちも楽になるし、いろいろ発散できるし、子どもの様子を知ることでもあるという場所だといふと考えると、子どもの発達などの知識を持った人がいてくれるといい。
- ・本当にいろいろな活動をしている人がいるので、そうした人とつながり、広がっていけば、みんながWin-Winになる。

(参加者)

- ・自分から話しかけることが苦手だったり、人の輪に入れなかったり、話しかけてほしい人もいるので、子育て支援センターでも、そういう支援があるといい。

(参加者)

- ・子どもの発達などで不安や悩みを抱えていても、子ども総合相談センターに相談するのはハードルが高い。
- ・子どもを遊ばせるついでや、なにかのついでに話ができて、職員が悩みや不安をキャッチし、その場で必要な人や支援につなげられるような場だといふ。時間や場所をあらためてとなるとハードルが高い。

(参加者)

- ・健診やなにかのついでに相談したいという人はすごく多い。
- ・小児科や児童センターでパパが子どもを連れてくるケースも多いので、お父さん向けのイベントもあったらいい。

(参加者)

- ・お父さん同士のコミュニケーションは大事。パパだけのイベントがあるとおもしろい。

(参加者)

- ・パパの日とか。

(参加者)

- ・口に出す人は少ないが、いろいろと知りたいお父さんも多いと思う。

(参加者)

- ・夫婦間だと感情的になるなど伝えるのが難しい場合もあるので、お父さんの悩み、お父さんが子育てに関わるメリット、お母さんを笑顔にすることが重要だということなどを伝えられたり、ママ、パパ、子どもそれぞれの学びにつながるイベントがあるといい。

(参加者)

- ・昔は父親学級というのもやっていたようだが、そこまで堅苦しいものでなくても、ミニ講座をシリーズで開催するのもおもしろい。

(参加者)

- ・民間同士の横のつながりも強化できると、ケースに応じて紹介しあえたり、つなげたりできるし、市全体で子育てしていこうという雰囲気づくりにもつながる。

エ その他

(参加者)

- ・レイアウトは変更の余地はあるか。

(事務局)

- ・各室については、乳幼児健診や相談等で最低限必要な面積としているため、例えば診察室を小さくするとといったことは難しい。
- ・配置についても、健診時の動線を意識したレイアウトとしている。

(参加者)

- ・遊びの空間と健診スペースの仕切りが壁になるのかどうか。健診中の子どもからは遊び場が見えるのか。健診がスムーズに受けられるようになるのか気になる。

(参加者)

- ・札幌で利用した小児科は、子どもの遊び場が割れにくいガラスで仕切られていて、子どもからは見えにくいですが、大人からは見渡せるようになっていた。
- ・一部分をすりガラスのようにして、健診に来た子どもからは遊び場が見えないようにするのもいい。

(参加者)

- ・午後に健診があるのは困る。小児科医の都合もあると思うが、子どもが眠たい時間で機嫌が悪かったり、寝起きで人見知りしたりするので大変。

(参加者)

- ・お母さんにとっても子どもにとっても、健診は午前のほうがありがたい。
- ・今は、新型コロナウイルスの影響で1回当たりの人数を制限していることもあって、健診の待ち時間は短くなっている。

(参加者)

- ・一方で受診時期が遅れ気味であり、4か月児健診を6か月くらいで受診するため、正しい診査が受けられているか不安という声も聞く。

(参加者)

- ・離乳食が進んでいない状況で保育所に入所してくる子どもも多い。
- ・コロナ禍で周りをつなぐににくいこともあり、アドバイスが受けられる場所や人とつながることができず、お母さんも孤独を感じていることが多く、保育士である自分が家庭での過ごし方などをアドバイスすることも多い。そうなる前に、子どもが小さいときから行きやすく、相談しやすい場所がほしい。

(参加者)

- ・おやこひろばに遊びに行ったときに不安な要素をすぐに解消できるといい。いつでも子どもの体重が計れるなど、気軽に利用ができるといい。

(参加者)

- ・栄養士がいてくれて離乳食の相談にのってくれるなど。

(参加者)

- ・離乳食は子どもの個人差が大きい。初めての子どもだとわからないので育児書のとおりになってしまうが、それが正解とも限らない。

(参加者)

- ・作ったのに食べてくれないとか、いろいろな思いがあると思う。

(参加者)

- ・そういうときに定期的に民間で活動している方がいたり、栄養士がいて、今日は離乳食の相談ができますよというようになるといい。

(参加者)

- ・栄養相談とか歯みがきとか。
- ・歯の生え方もすごく個人差があって、早い子だと4か月くらいから生えてくる。

(参加者)

- ・なにかのついでに、そうした子どもの成長であったり、成長に必要なことを意識できるといい。

(参加者)

- ・気軽に相談できたり、不安を解消できる場所が必要。

(参加者)

- ・自分で相談しに行けることも大事だが、お節介をやいてくれる人がいて、異変に気付いて必要な支援につなげたり、場合によっては介入したりすることで、誰も取り残されないようになるといい。住民同士のチェック機能のような。

(参加者)

- ・声をかけるのは難しいが、気付くことはできる。知識や学びを通じて相手に気付かせることもできる。
- ・気付き、つなげることができれば、状況の共有や話し合いにもつながっていく。